



今回のガイド
わかまつ くにひこ
若松 邦彦さん

鶴岡市出身。あつみ観光協会温泉支部の支部長を務める。「温海の歴史は深い。ぜひゆっくり滞在してほしいですね。」

今回のガイドは、365年前から殿様の湯治宿とされてきた「あつみホテル温海荘」の若松さん。冬には稀有な晴天に恵まれる中、温泉街の歴史を学びつつ、そぞろ歩きを楽しんだ。

庄内暮らしも3年目の私だが、冬の厳しさにはまだ慣れない。寒さに凍みる日々の中、温かいという言葉は、それだけで心に灯をともししてくれる。
温かい海と書く「温海（あつみ）温泉」は、冬の庄内で私が最も愛する地名だ。この名は西暦849年に発生した大地震に端を発するといわれている。地殻変動によって川底から湧き出した温泉が海に流れて、海が温かくなったそうだ。そして、今から400年ほど前、庄内藩初代藩主・酒井忠勝が湯役所を置いたことで温泉街が開かれた。ほとんどの旅館がこの頃に創業しており、1649年には殿様、お姫様、御台所、家老が温泉街のあちらこちらに分宿し、湯治を楽しんだとの文献が残る。

お殿様も愛した 開湯千年のいで湯



第6回 庄内みどころ再発見 ぽかぽか温海 そぞろ歩き

Supported by 庄内広域行政組合



自然を肌で感じる ひとときの温泉旅へ

街歩きは湯之里橋の上の飲泉所からスタート。勢いよく噴き出すお湯は、塩化ナトリウムを多く含んでいるためか、ほんのりと塩気を感じる。ここのお湯は、冷えや乾燥に良いという。

温泉街を流れる温海川沿いには、約130本の桜並木が続き、その合間に足湯やベンチが設けられている。川面に向かってゆるやかに傾斜した「寝そべりベンチ」に横になると、せせらぎと鳥の音が響いてくる。「初夏には『カジカガエル』が、ヒグラシみたいな澄んだ声で鳴くんですよ」と若松さんが教えてくれた。川底が自然のままに残されている温海川は、生き物たちの楽園だ。

看板に誘われて、お饅頭屋さんの「いしぐるや」へ。この名物は揚げまんじゅうだが、今日はソフトクリームをオーダーする。なんとここはセルフサービスなのだ。ソフトクリームの素をマシンにセットし、スイッチオン。ドキドキしながらコー



あつみ温泉は江戸時代初期に庄内藩主の湯治場として開かれた由緒ある温泉街。近年は町ぐるみでの「おもてなし」が行われています。



ソフトクリームを上手に仕上げるコツは、ゆっくり回すこと!



飲泉所で源泉をごくごく。温海のお湯はほんのりと塩気を含んでいる。



ガイドの若松さんが働く「温海荘」は情緒あふれる木造の温泉建築。



耳より温海かわら版

町歩きがさらに楽しくなる
あつみ温泉の訪問ポイント



ファンシーショップ花風

旅館「瀧の屋」の向かいにある雑貨店。湯上がりガーゼタオルやアクセサリー、駄菓子などが多彩に揃う。

羽越しな布

温海の関川地区に残る伝統的工芸品。しなの木の皮をはぎ、手作業で糸に撚る。木の皮を使った織物は世界的にも珍しく、貴重な技術。製品はチットモッシュェや関川しな織センターにて販売中。



町の紹介タイル

温海川沿いに埋め込まれており、ベンチや足湯を楽しみながらじっくりと読める。



与謝野晶子の歌碑

歌人の与謝野晶子は、夫・鉄幹が亡くなった3カ月後の昭和10年6月末から7月にかけてあつみ温泉を訪れ、数首を残している。その一首「さみだれの出羽の谷間の朝市に傘して売るはおほむね女」が万国屋の側の歌碑に刻まれている。



足湯カフェ チットモッシュェ

あつみ温泉散策時の休憩場所として最適なショップ&カフェ。店の前のオープンデッキにある足湯「もっしえ湯」は無料で利用できる。タオルも用意してあるのが嬉しい。



四季の彩と、川音が響く 四季のある温泉街

もう一つ、温泉街には神社がある。境内に3千株のバラ園がある熊野神社だ。昭和37年の開園以来、地元の人たちが手入れ

を回すと、クリームが高く積み上がっていく。やや不格好な仕上がりも、自分でやったと思えば可愛い。家族や友人と一緒に盛り上がりそうだ。
店を出て、街なかの足湯を巡って朝市広場を訪れる。ここでは4月から11月までは毎朝、市が立つ。広場の奥には温泉神社の拝殿が鎮座し、その脇からちよろちよろとお湯が流れている。ツンと鼻をつくにおいがした。「一番源泉です。この地下から汲み上げたお湯が街全体にまわっています。だから硫黄の香りはここが一番強いし、ここが一番熱い。68℃あります」。拝殿の奥には源泉を貯えた銀色のタンクがそびえ、その大きさが豊富な湯量を物語っていた。奥の高台には温泉神社の本殿が見える。子孫繁栄などのご利益があると聞き、しっかりと手を合わせた。



お目々ぱっちりの特徴の温海こけし。今では作り手が1人になった。

を続け、見頃になると見事な花を咲かせている。近年は鶴岡公園にあった「殿様のバラ」が移植されて話題となった。枝先に、まだ小さな芽を見つけた。エネルギーをたっぷり貯めてはちきれそうだ。春を待つ者がここにもいたと、嬉しくなる。

最後は足湯カフェの「チットモッシュェ」へ。庄内の言葉で「チット」ちよつと、「モッシュェ」おもしろい」という店名の通り、足湯につかってティータイムなんて、ちょっと面白い過ごし方ができる。店内にはギャラリーショップが併設され、地元の陶芸家の作品や伝統工芸の「しな布」「温海こけし」などが並ぶ。街歩きの締めくくりに、外の足湯を試してみた。まだひんやりとした風が肌をふれる中、お湯は熱々で、身体の芯からぽかぽかと温まった。
かつて与謝野晶子や横光利一も訪れたという名湯、あつみ温泉。次は花嵐が吹く頃に、気心の知れた女友だちと、気もそぞろにこの街を歩いてみたい。

編集・文：松本典子 写真：間真由美
協力写真提供：鶴岡市役所温海庁舎産業課、あつみ観光協会



春のあつみ温泉イベントガイド

摩耶山新酒まつり

地産地消の限定酒「摩耶山」が飲み放題! 温海地域の美味しいものの販売やお楽しみ抽選会も開催されます。

- 日時 3月7日(土) 15時~18時
- 場所 あつみ温泉朝市広場
- 費用 前売り券1000円(当日券1200円)
- 問 あつみ観光協会 ☎0235-43-3547

湯のまち 人形めぐり

温泉街の旅館や商店全16カ所で開催。温泉街の旅館や商店全16カ所で開催。雛人形を展示。スタンプラリーや期間限定メニュー、雛まつりイベントなどで春の訪れを祝います。

- 日時 3月1日(日)~31日(火)
- 問 あつみ観光協会 ☎0235-43-3547

第30回記念 温海さくらマラソン

満開の桜並木を駆け抜けるマラソン大会。今年は第30回を記念して、ゲストランナーに浅井えり子さんをお迎えします。(エントリーは締め切りしました)

- 日時 4月19日(日)
- 問 温海さくらマラソン大会事務局 ☎070-6614-5030

夜桜ライトアップ

温海川沿いの桜並木がライトアップされ、幻想的な美しさに。

- 日時 4月20日頃~GWまで



昭和初期の温海川葉月橋



昭和初期と現在の葉月橋。昭和26年の大火事で町のほとんどが燃えてしまったため、昔の面影を残すものは少ない。

